

薬の伝言板

か かつどうぼうこう 過活動膀胱



No. 322 2024 年 9 月
丸子中央病院 薬局

か かつどうぼうこう 過活動膀胱とは

過活動膀胱とは、膀胱が活動し過ぎてしまうことにより、急に尿意をもよおして何回もトイレに行ったり、我慢ができずに尿を漏らしてしまったりする病気のことをいいます。過活動膀胱の代表的な症状として、下記の4つが挙げられます。

| | |
|------------------------|-------------------------------|
| にょういせっぱくかん 尿意 切迫感 | 急に起こる、我慢できないような強い尿意 |
| ちゅうかんひんにょう 昼間頻尿 | 起きている間に何回もトイレに行き、それを辛く感じている状態 |
| やかんひんにょう 夜間頻尿 | 夜間睡眠中に1回以上トイレに行き、それを辛く感じている状態 |
| せっぱくせいによしっきん 切迫性尿失禁 | 尿意切迫感により、トイレに間に合わず尿が漏れてしまう症状 |

過活動膀胱の原因

過活動膀胱の発症メカニズムについては、いまだ十分には解明されていませんが、脳と膀胱をつないでいる神経のトラブルによる「^{しんけいいんせい}神経因性」のものと、それ以外の「^{ひしんけいいんせい}非神経因性」の2つの機序に大別されています。



^{しんけいいんせい}神経因性過活動膀胱

脳梗塞や脳出血などの脳血管障害、パーキンソン病などの脳の疾患などにより、脳と膀胱を結ぶ神経の回路に障害が生じ引き起こすもの。

^{ひしんけいいんせい}非神経因性過活動膀胱

男性では前立腺肥大症による膀胱の圧迫など、女性では加齢や出産による骨盤底筋の損傷などで引き起こすもの。また、男女共通でメタボリック症候群をはじめとした生活習慣病が原因の一つと言われています。

過活動膀胱の治療

行動療法

薬ではなく、生活習慣の改善や体操などで過活動膀胱を治療する方法です。



● 体重減少

肥満を改善することにより過活動膀胱の症状が緩和されることが報告されています。

● 膀胱訓練

尿意を我慢し膀胱の容量を広げる訓練法です。我慢する時間は短時間からはじめ、徐々に 15~60 分単位で排尿間隔を延ばし、最終的には 2~3 時間の排尿間隔が得られるように訓練します。

● こつばんていきんくんれん 骨盤底筋訓練

腹筋に力が入らないように膣や肛門を締めるようにする訓練法です。特に女性において有用を言われています。

薬物療法



主に 2 種類の薬（抗コリン薬、 $\beta 3$ 受容体作動薬）が使用されます。また、難治性の過活動膀胱にはボツリヌス毒素の膀胱壁内注入療法が行われることがあります。

● 抗コリン薬（オキシブチニン、プロピペリン、ソリフェナシンなど）

排尿筋をコントロールしている自律神経に作用して、膀胱の過剰な収縮を抑える薬です。この薬剤は従来から広く使用されていますが、便秘や口の渇きなどの副作用に注意が必要です。

● $\beta 3$ 受容体作動薬（ミラベグロン、ビベグロン）

膀胱を広げて尿道を縮ませることで尿意切迫感を改善させる薬です。口渇や便秘の頻度が低いと言われています。

● ボツリヌス毒素膀胱内注入療法

膀胱の筋肉を緩めるボツリヌス毒素を膀胱壁に直接注射する治療法です。通常の薬物療法で効果が見られない場合や副作用で継続が困難な場合に行われます。日本では 2020 年に保険適応となりました。

過活動膀胱に似た症状をもつ疾患に尿路結石、膀胱炎、膀胱がんなどが挙げられます。検査をすることで他の病気の早期発見につながることもあるため、気になる症状がありましたら早めに受診しましょう。